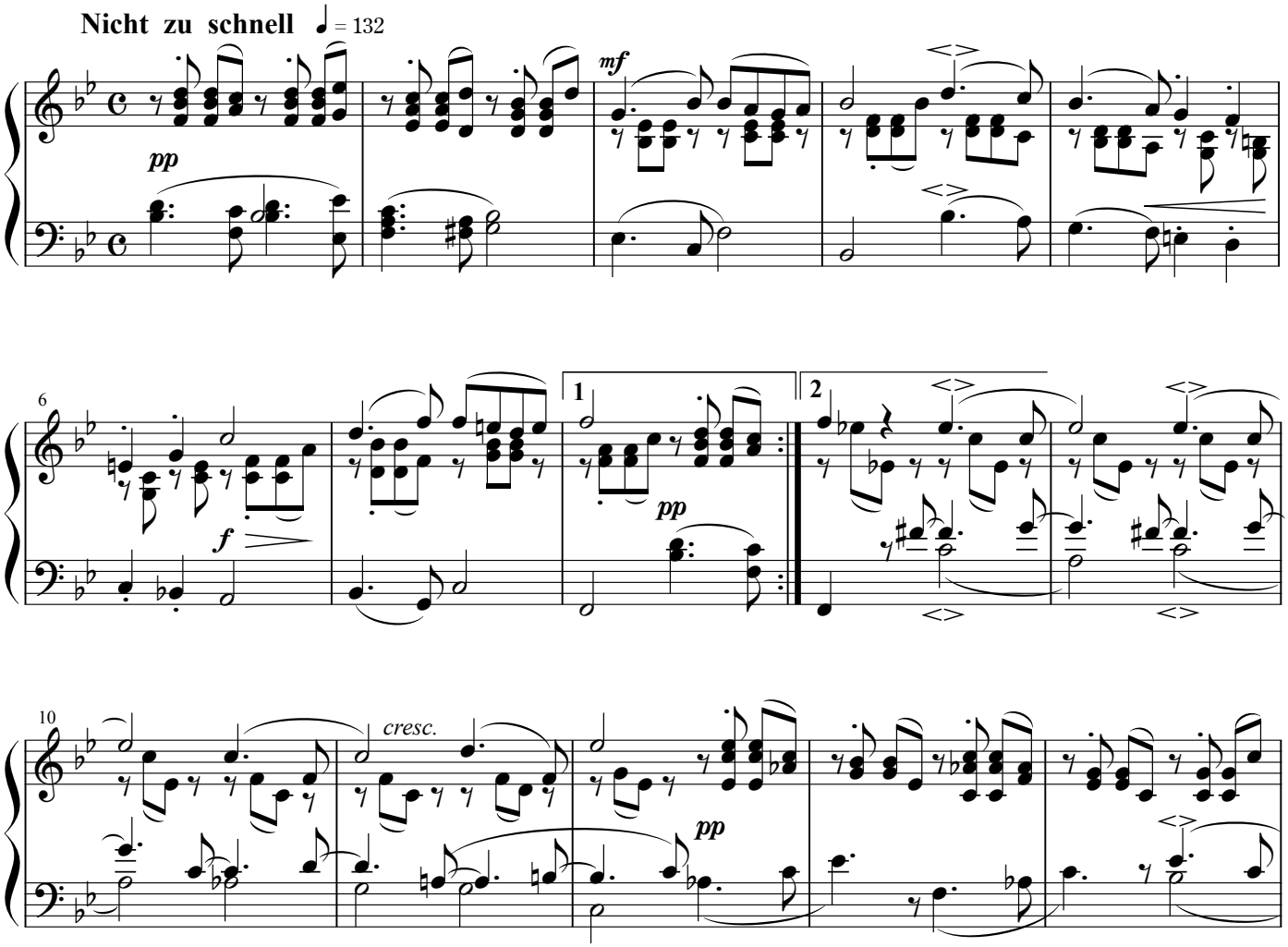
シューマンの情景　　谷　篤・詩

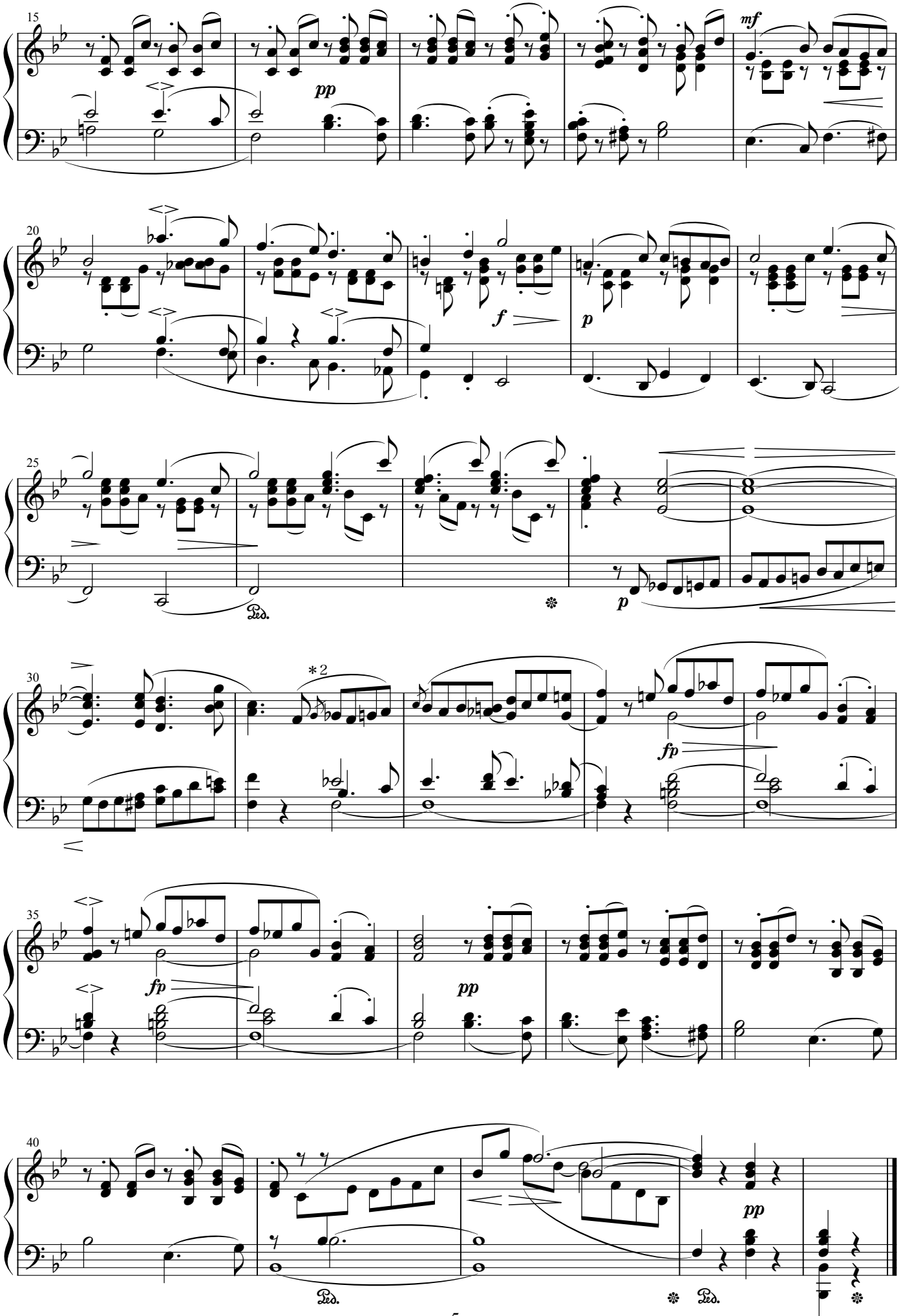
森の入り口

光と闇
その調和が崩れてゆく
闇が暴走を始めた
人々の心は次第に闇に支配され
より多くの光を手に入れようと
争い　奪い合う
世の中には疑いの靄と
たくらみの埃が立ちこめ
光はさらに遮られてゆく
かつてない暗闇がその翼を広げ
世界を包み込んでゆく
気をつけろ
眠らずにいるのだ*1

だが心は疲れ果て
救いを求める
そして魂は幸福なる過去を呼び起こし
慰めの記憶をさがす
そこに見えてくるのは
森の情景
神秘と幻想が行き交い
光と闇が調和する場所
人間の心の闇さえ
光に浄化されてしまう
魂の奥底に書き記された
森の入り口への地図
心に残るかすかな愛の光を頼りに
記憶の小道をたどり
森へ行こう

1. Eintritt



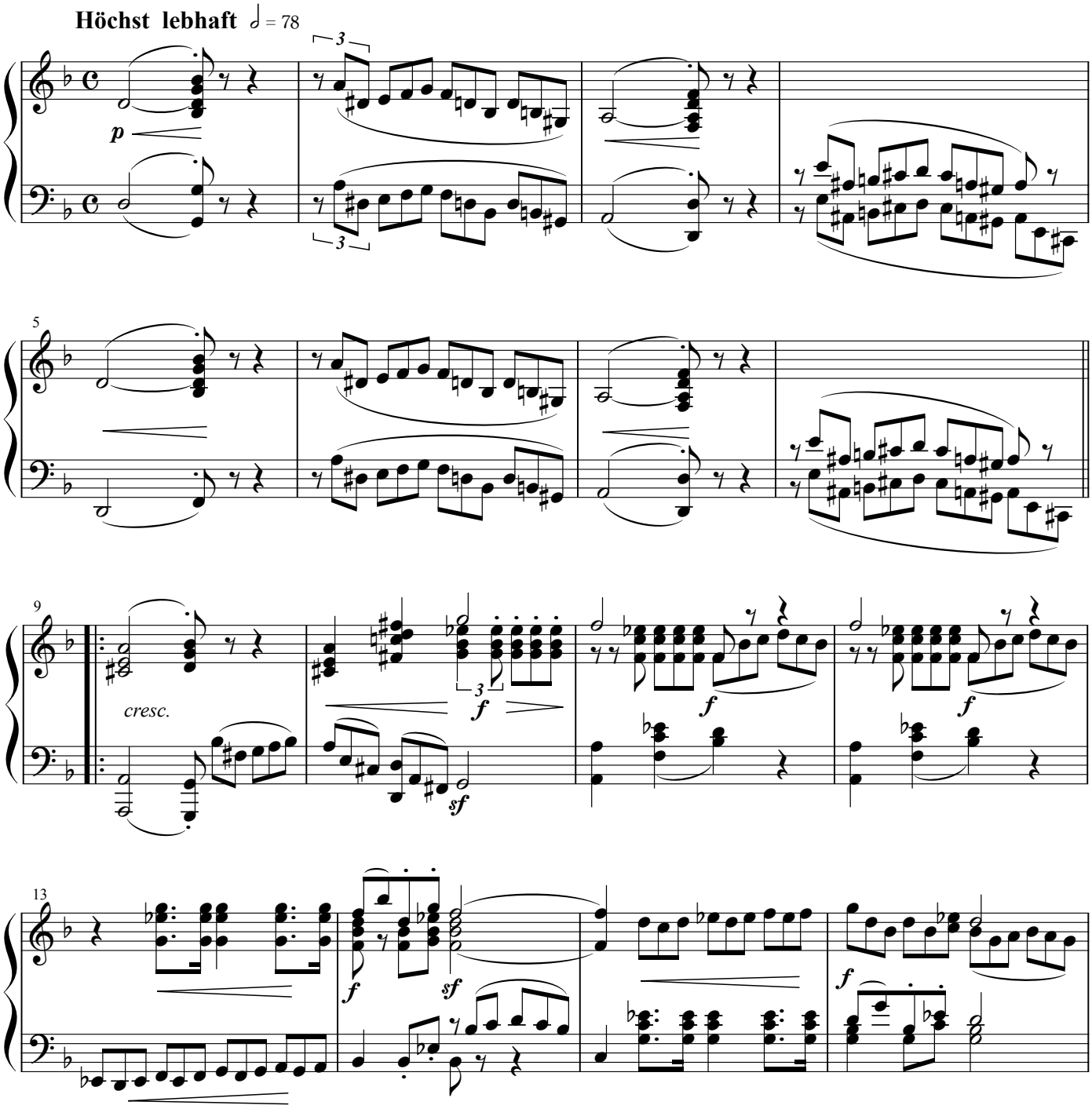

15
mf
pp
20
f
p
25
Ped.
p
30
*2
fp
35
fp
pp
40
pp
Ped.
Ped.

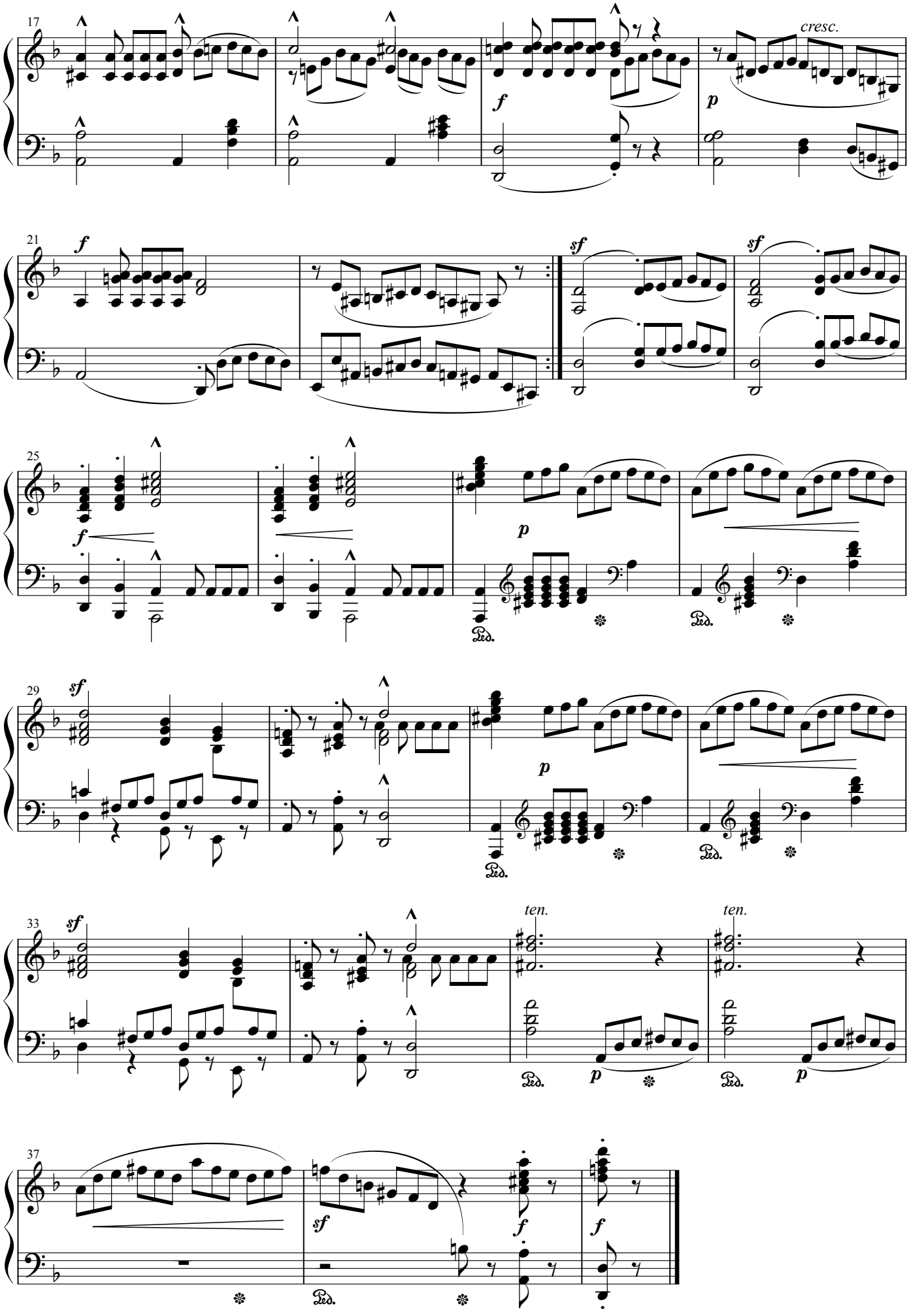
待伏せする狩人

森にこだまする角笛
狩人たちの声
呼び起こされる忌まわしい感覚
待ち伏せ
罠
欺瞞と策略
争いの果てに待つのは
光か闇か

狩人と獣
狩るものと狩られるもの
勝者と敗者
偽りの光は
獣の目を眩ませ
盲目の獣はたやすく罠にかかる
流れる血
死の匂い

2.Jäger auf der Lauer

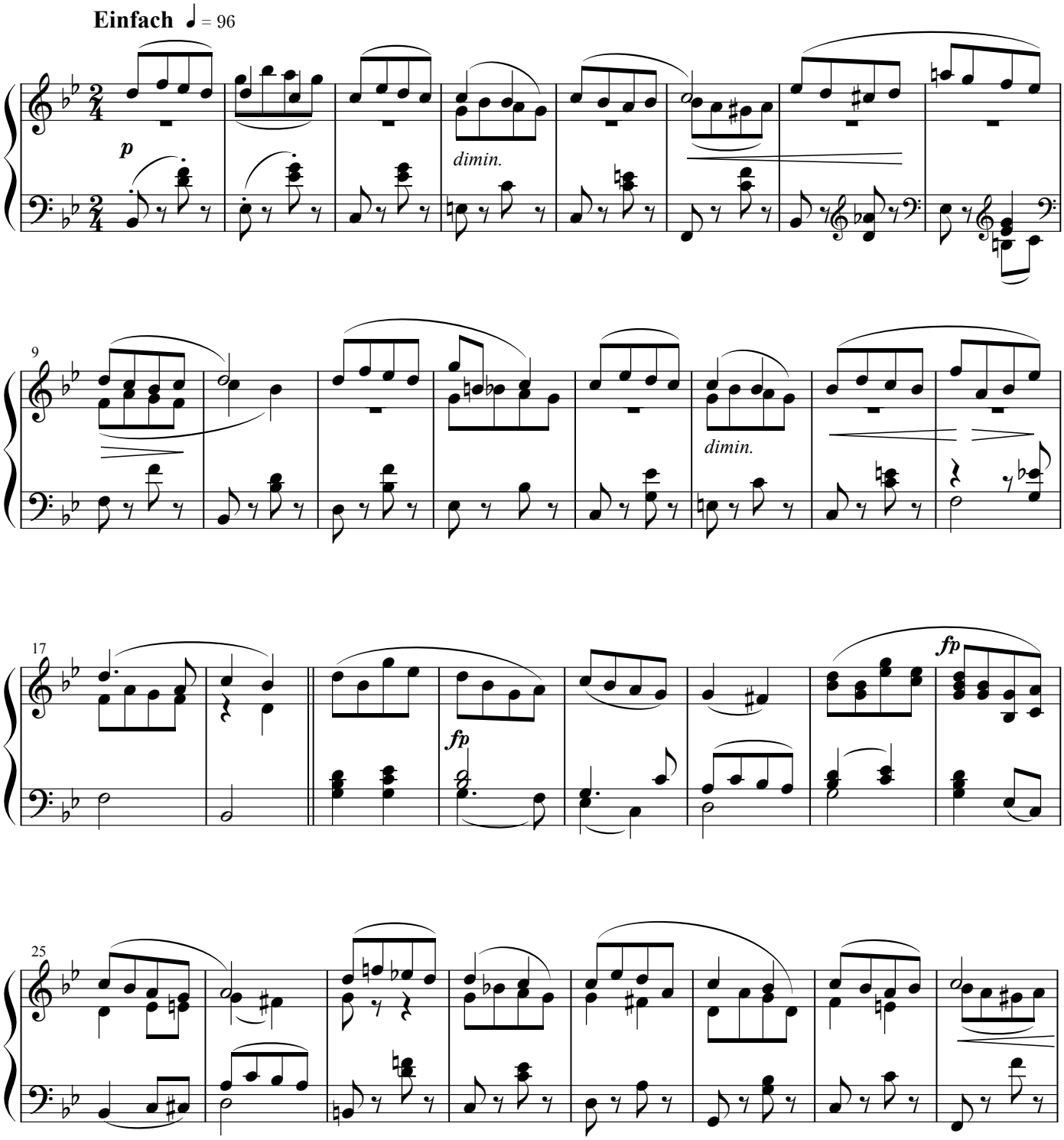


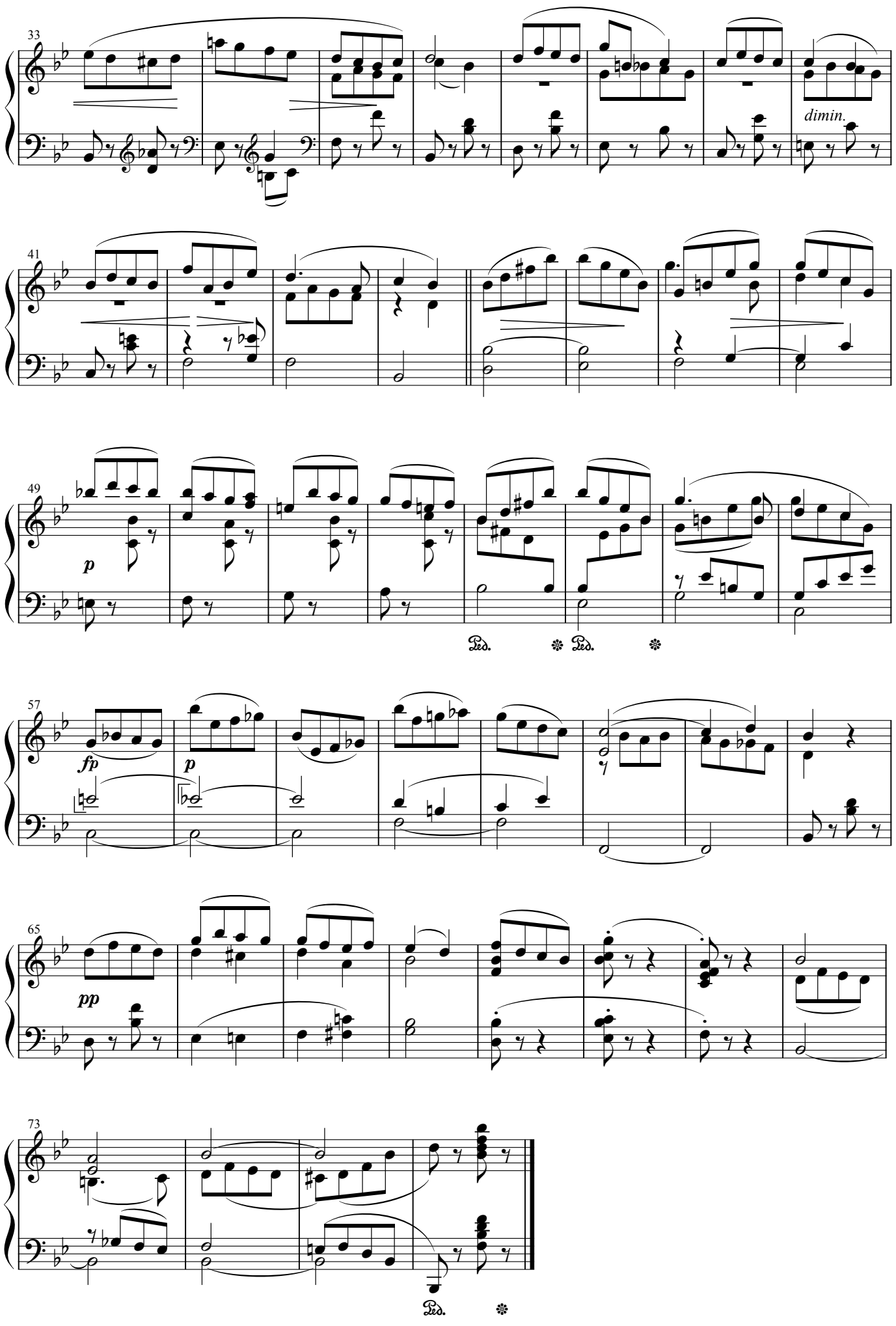

17
cresc.
21
25
29
33
ten.
ten.
37

寂しい花

森の奥に
ひっそりと咲く
光から遠ざかったその場所で
争うこともなく
奪い合うこともなく
ただ咲き続ける
一輪の花
この花こそ
森の調和なのだ

3.Einsame Blume



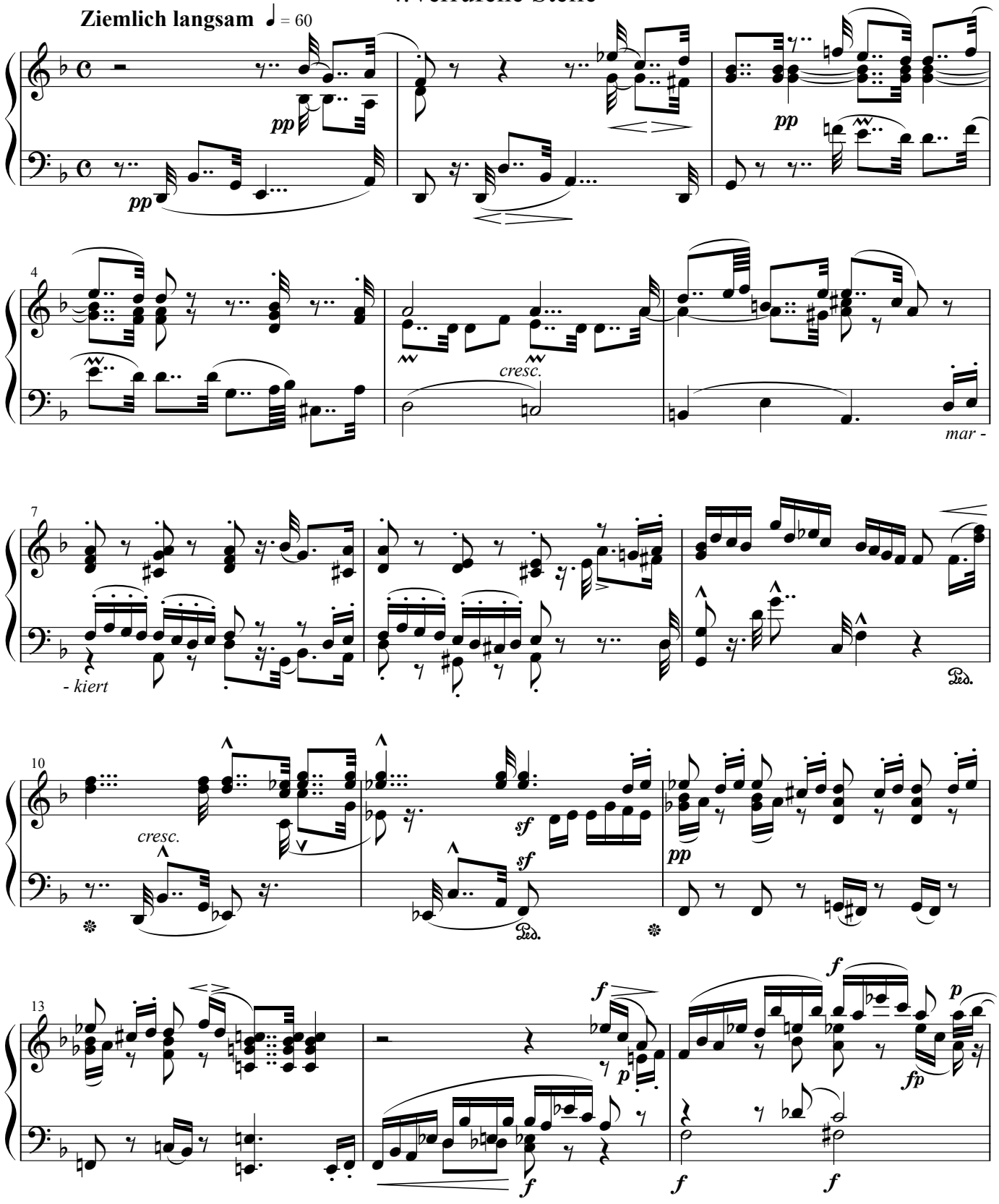

33
dimin.
41
49
p
Ped.
Ped.
57
fp
p
65
pp
73
Ped.

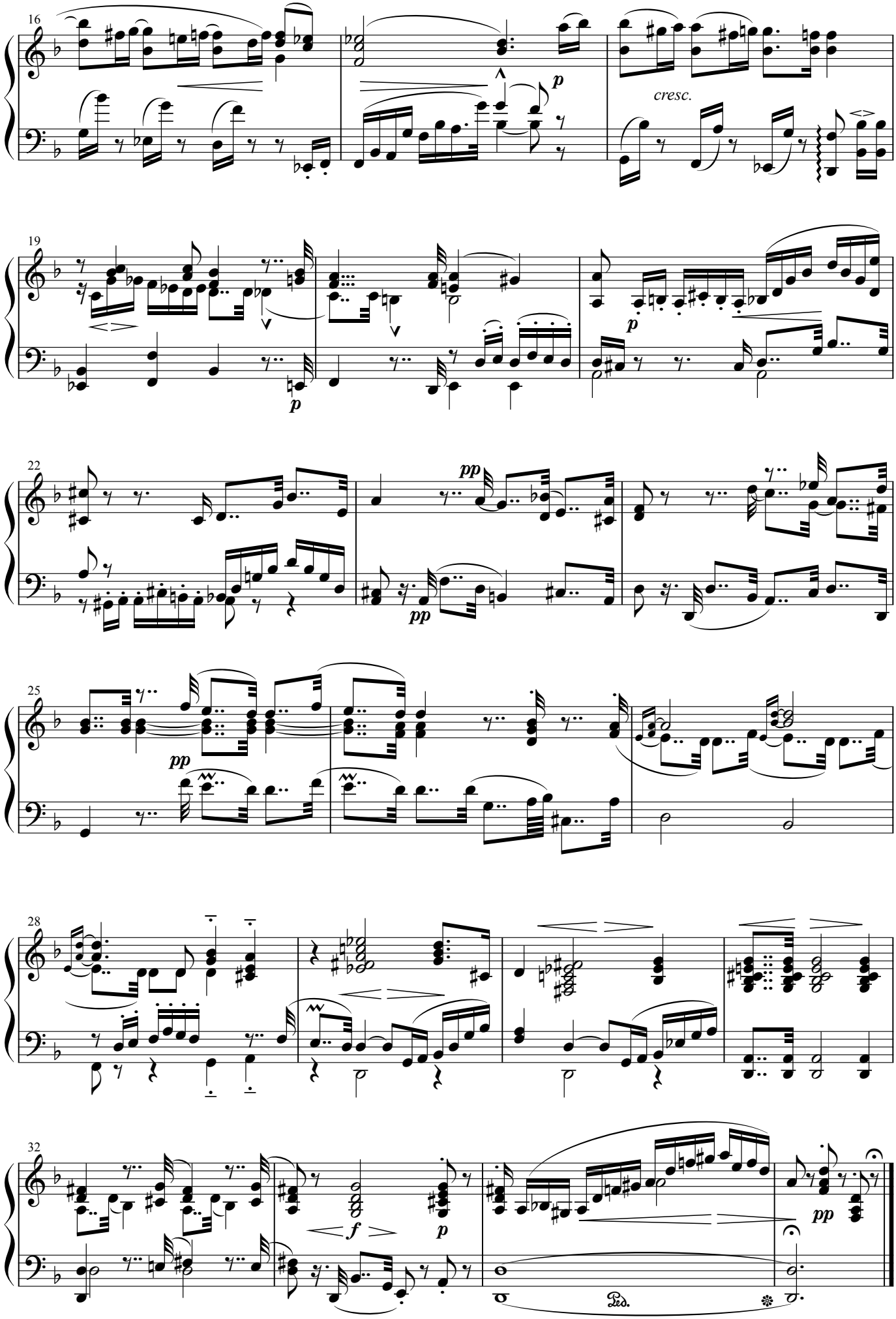
評判の悪い場所 *3

ここでは　花々はひときわ高く育ち
青白い　まるで死のように
真ん中の一つだけが
暗い赤の中に立っている
それは太陽から受けたものではない
太陽の燃える赤がそこを照すことはなかった
それは大地から受けたものだ
大地は人間の血を吸ったのだ

(F.ヘッベル)

4.Verrufene Stelle



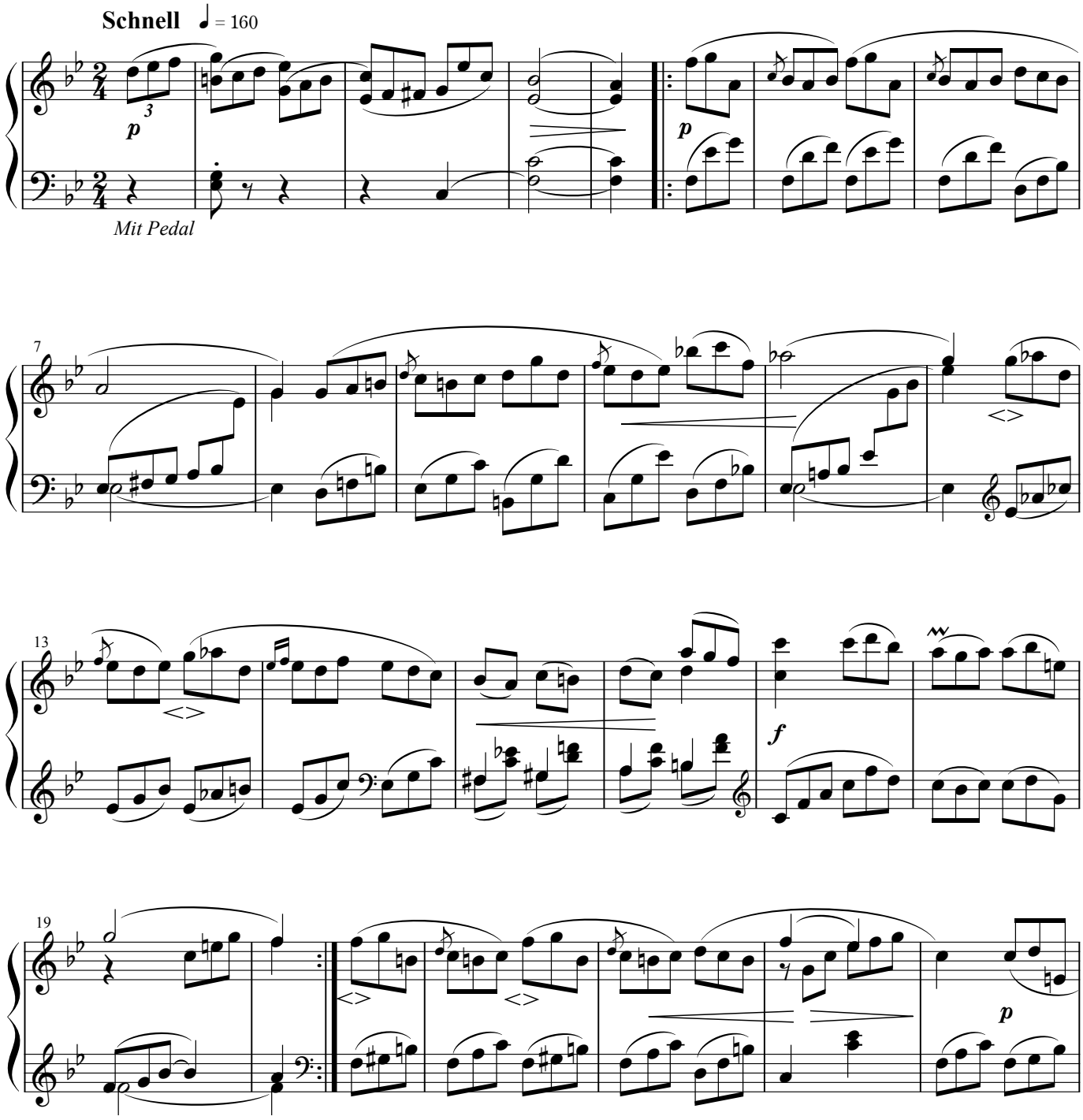

16
cresc.
19
22
25
28
32
Ped.

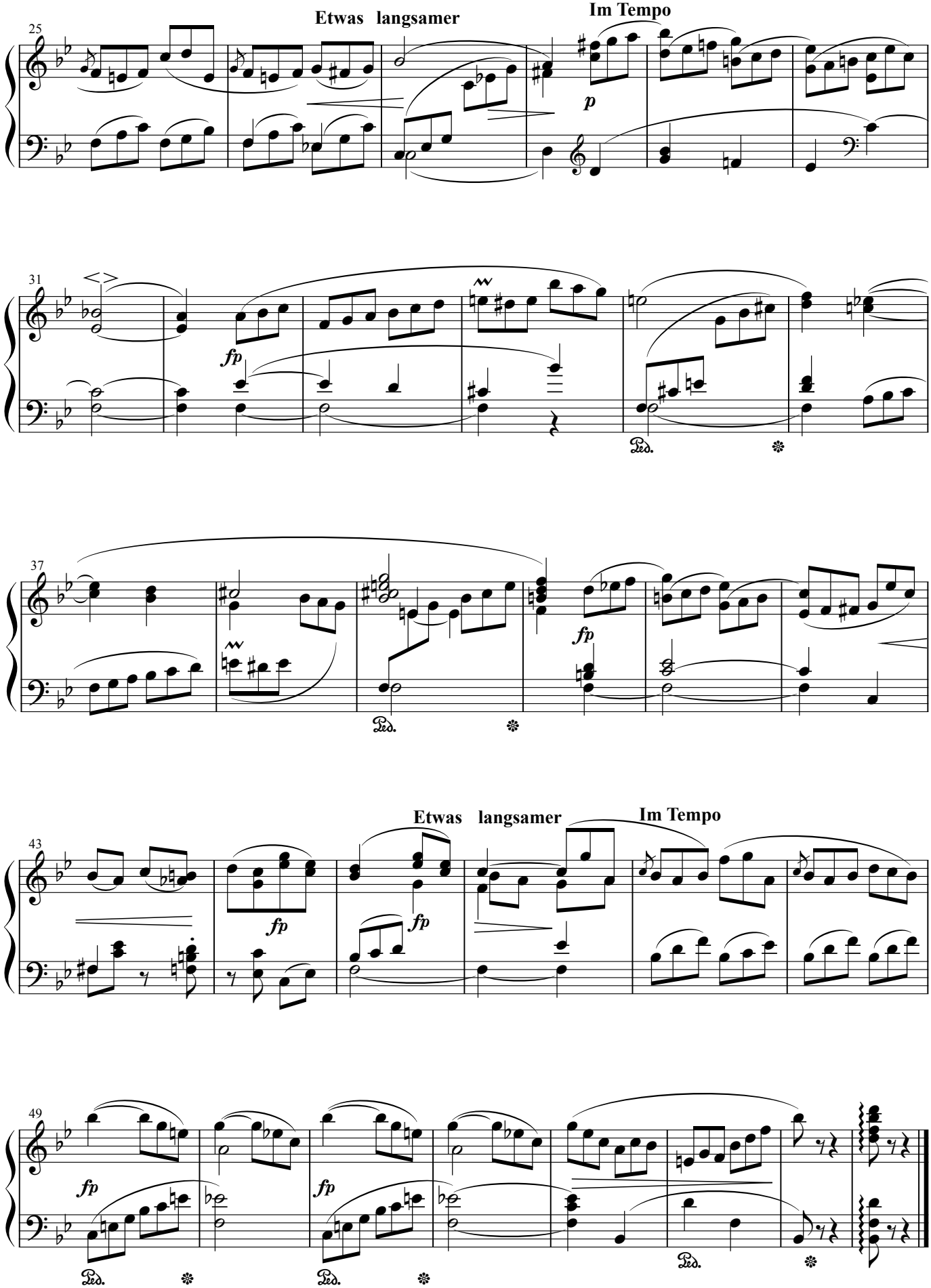
気持ちのよい風景

森にこだまする響き
木々はそよぎ
小鳥は歌い
泉は物語る
音は光となってあたりを飛び回る*4
輝きのシンフォニー

ジャスミンの茂みは*5
初めての口づけのように瑞々しく
ミルテの花は花嫁の如く香り立つ*6
夕べには
光と闇が森を神秘の赤に染め上げ
夜　星が天に輝き
森は幻想に満たされる

5.Freundliche Landschaft



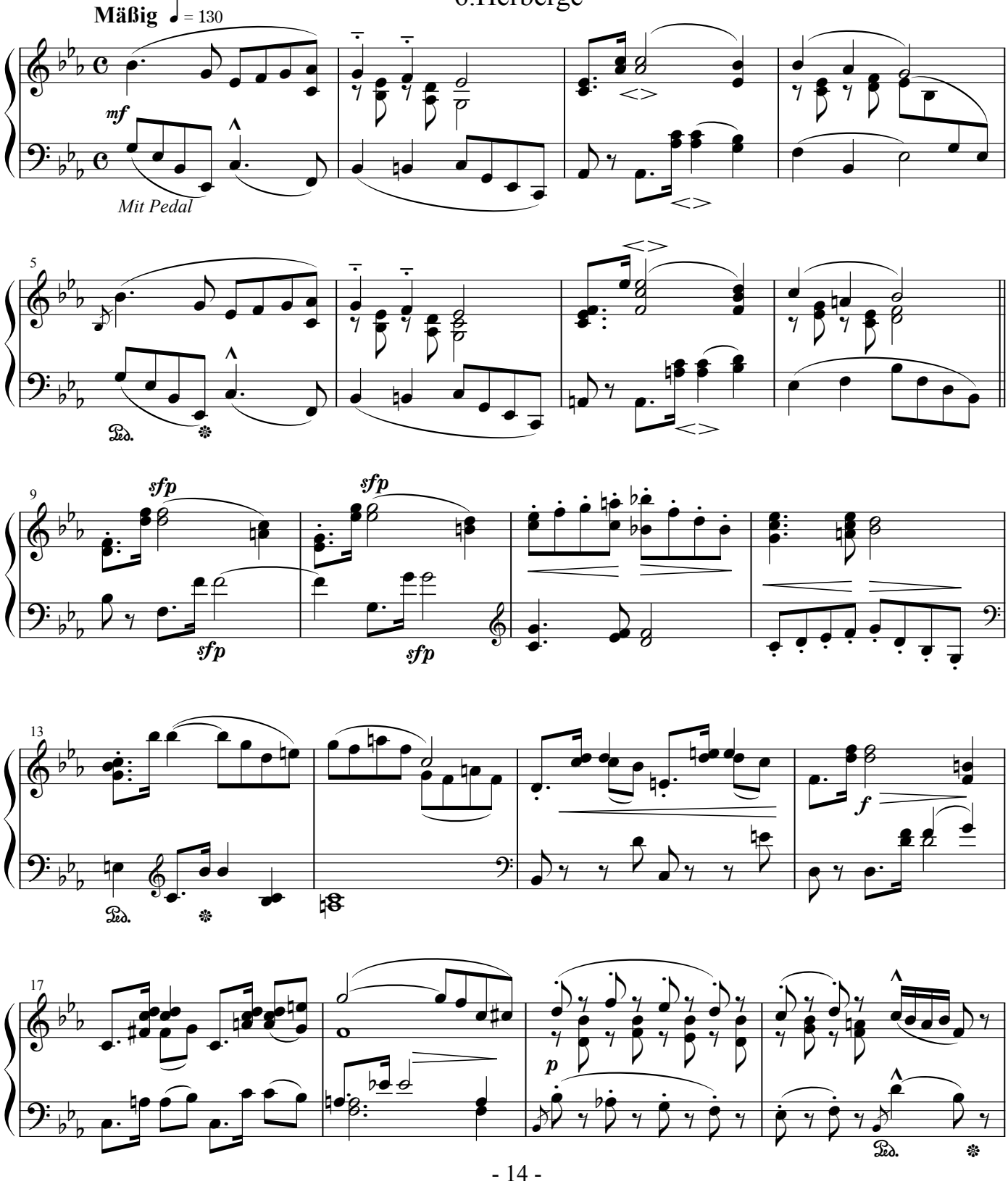

Etwas langsamer
Im Tempo
25
p
31
fp
Ped.
37
fp
Ped.
Etwas langsamer
Im Tempo
43
fp
fp
49
fp
fp
Ped.
Ped.
Ped.

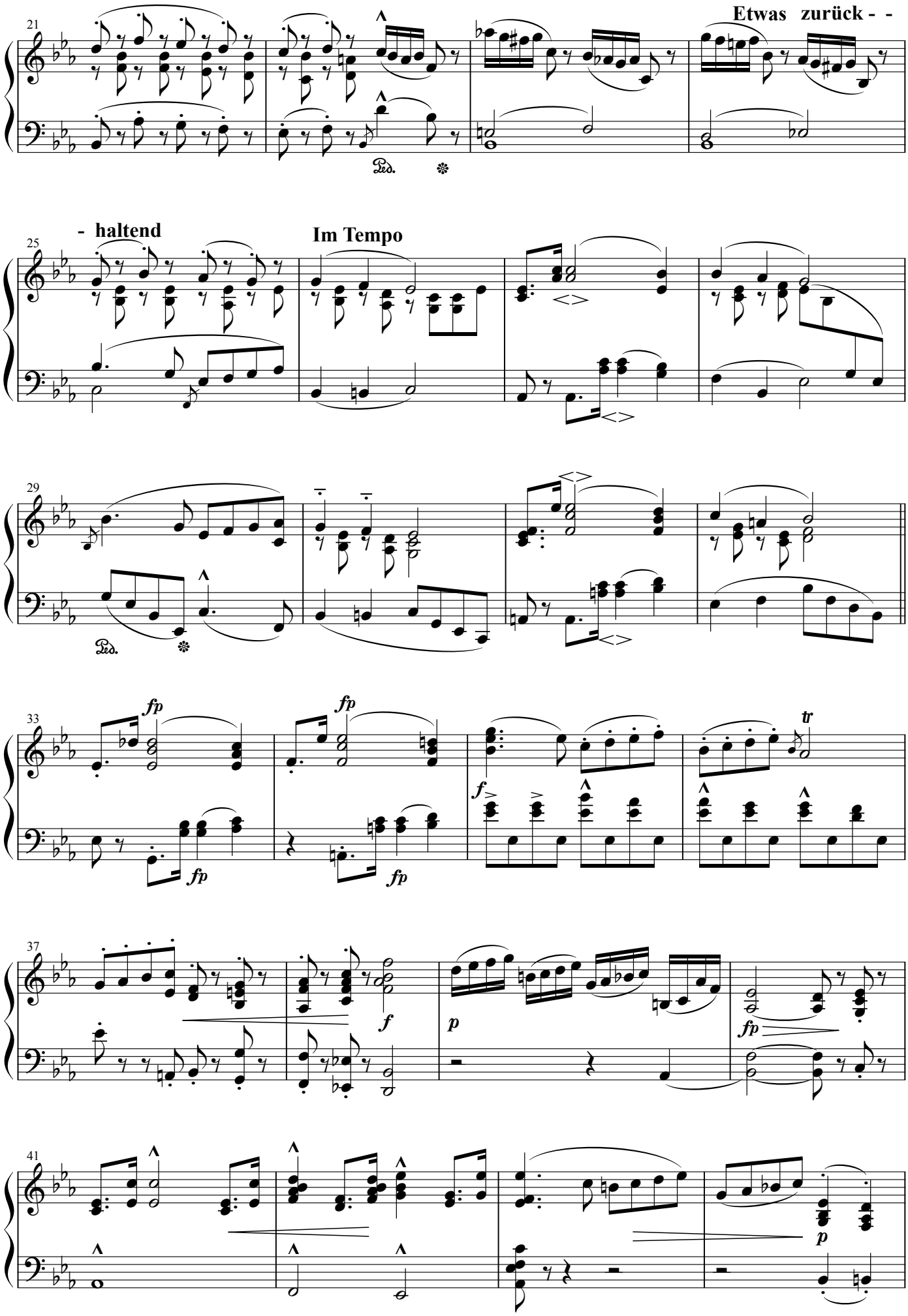
はたご屋

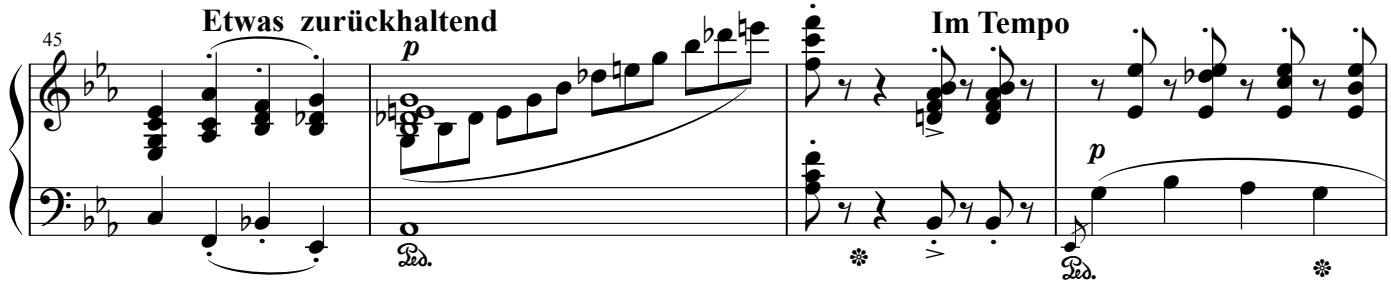
遙か遠くから聞こえてくる旋律
言葉無き歌 *7
忘れていた希望が呼び起こされる
森の向こう
彼方にそびえる高き峰
天空への憧れ

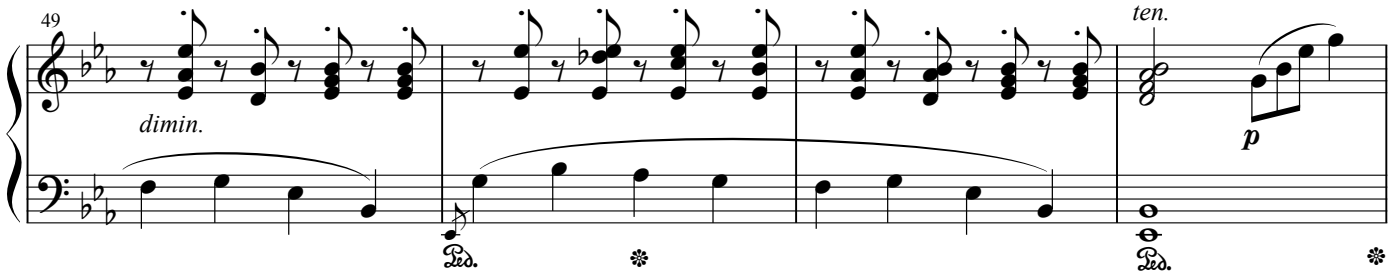
天使がその羽を休め
眠りにつくところ
心は苦しみから解き放たれ
魂は天使のもとへと飛び立つ
風景はさらに美しく
世界は光に満ちあふれ
すべてのものが微笑みかけてくる

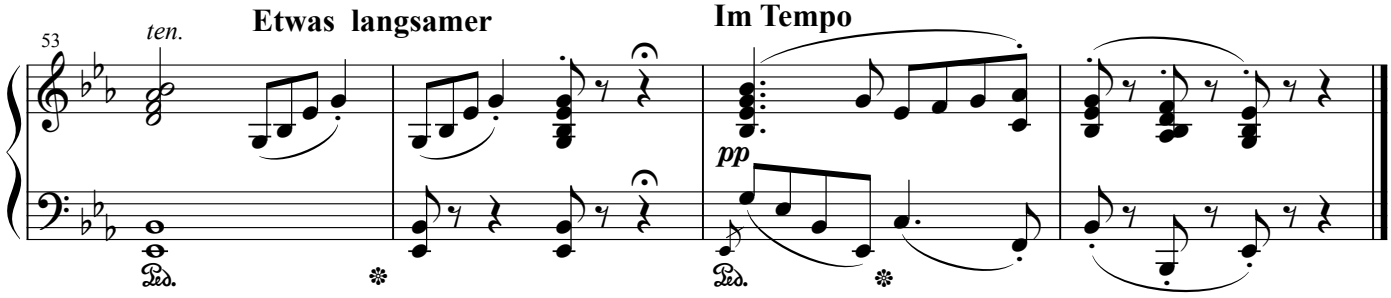
6.Herberge




21
Etwas zurück - -
Ped.
25
- haltend
Im Tempo
29
Ped.
33
fp
fp
fp
fp
f
tr
37
f
p
fp
41
p
Ped.







予言の鳥

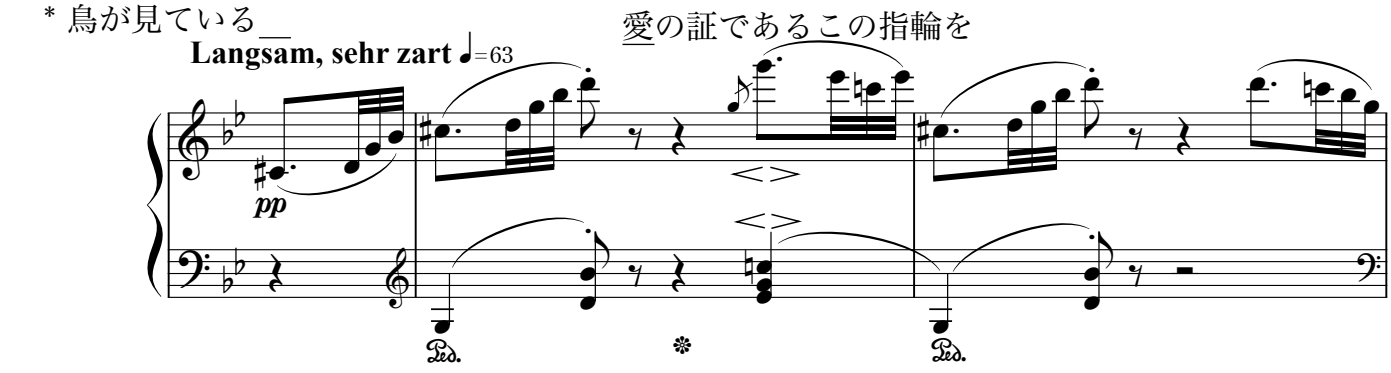
何度も繰り返し現れるイメージ *8
葬列と棺桶
不幸な絶望した人々の情景

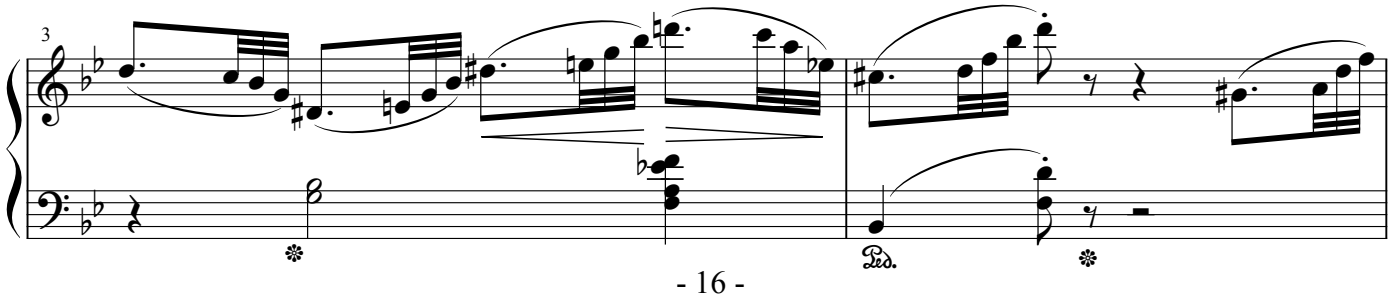
それは死の予感なのか
不意に指輪を泉に投げ込みたくなる *9
指輪と一緒に
この身も沈めてしまいたくなる *↙

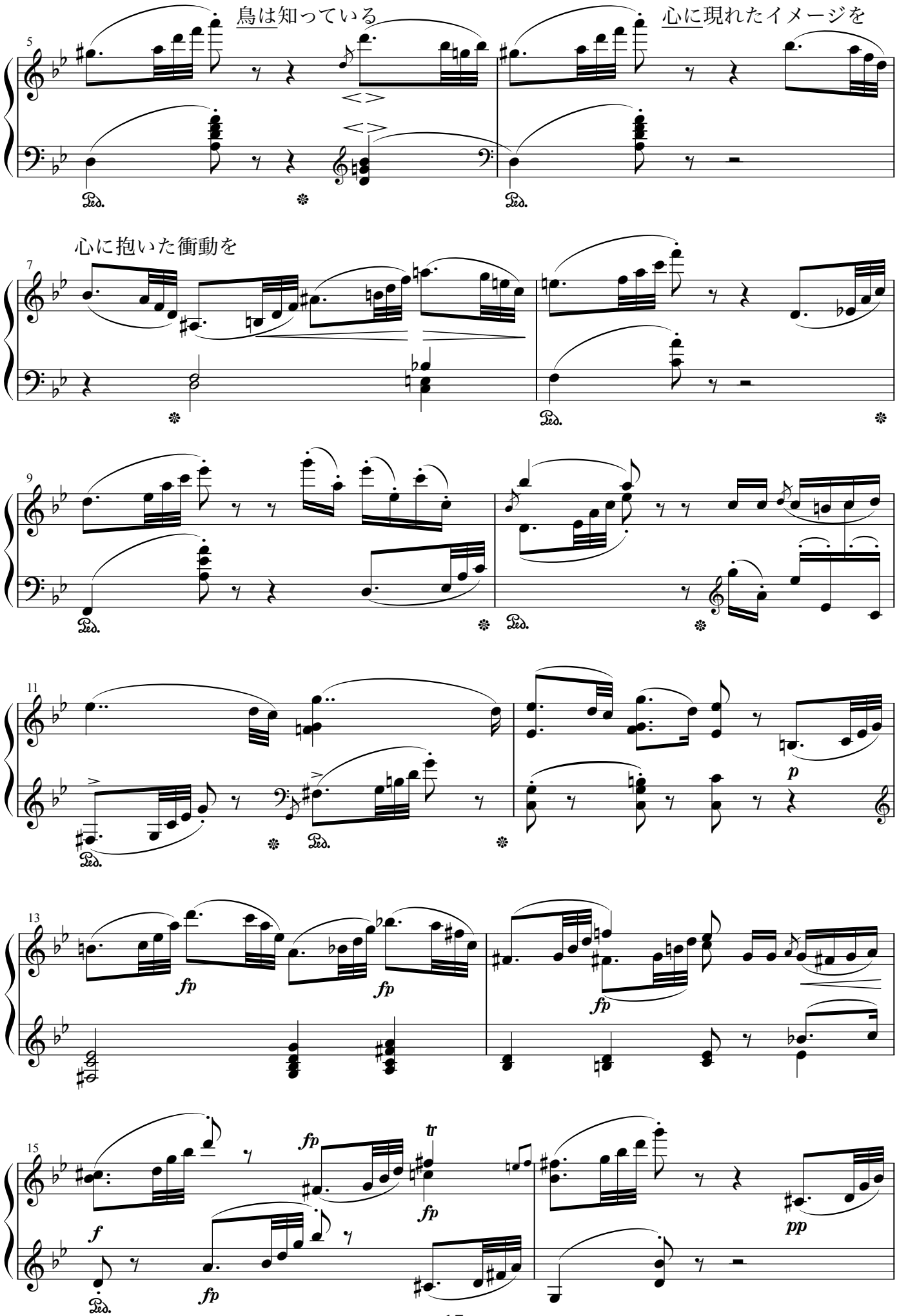
7.Vogel als Prophet

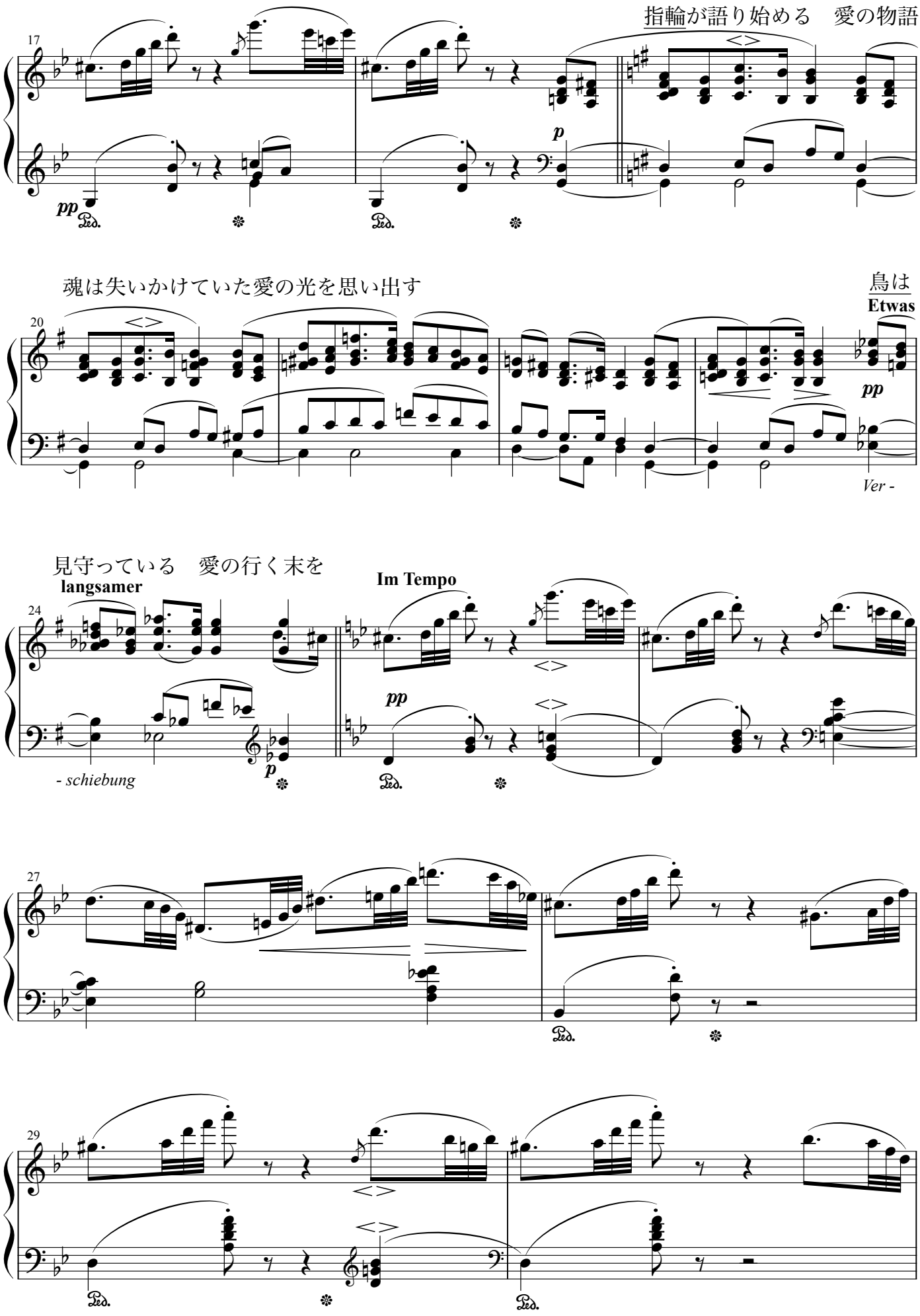
* 鳥が見ている

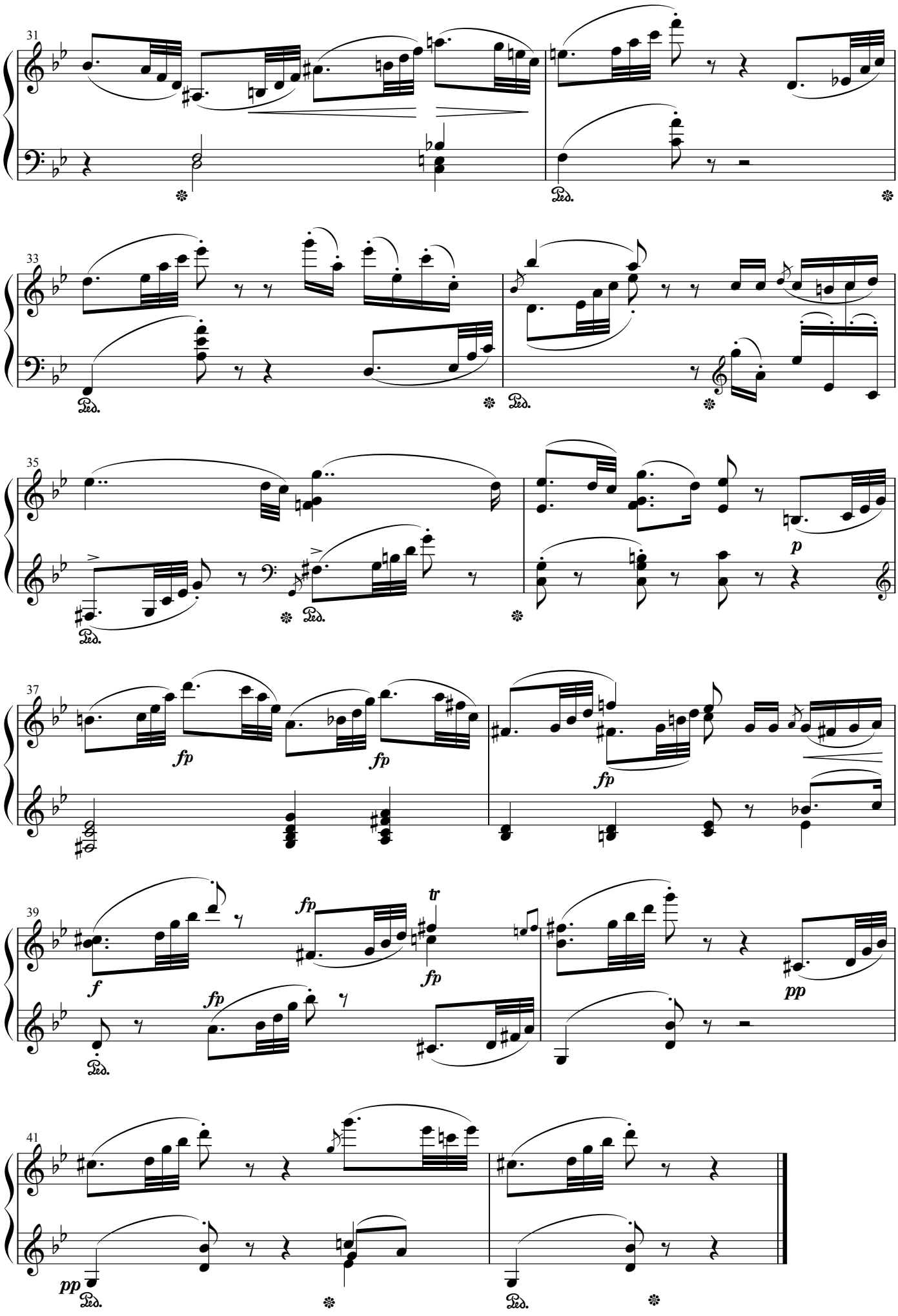
愛の証であるこの指輪を






鳥は知っている
心に現れたイメージを
心に抱いた衝動を
Ped.
fp
f
p
pp
tr


指輪が語り始める　愛の物語
17
pp
Ped.
p
魂は失いかけていた愛の光を思い出す
鳥は
Etwas
20
pp
Ver -
見守っている　愛の行く末を
langsamer
Im Tempo
24
- schiebung
pp
27
29

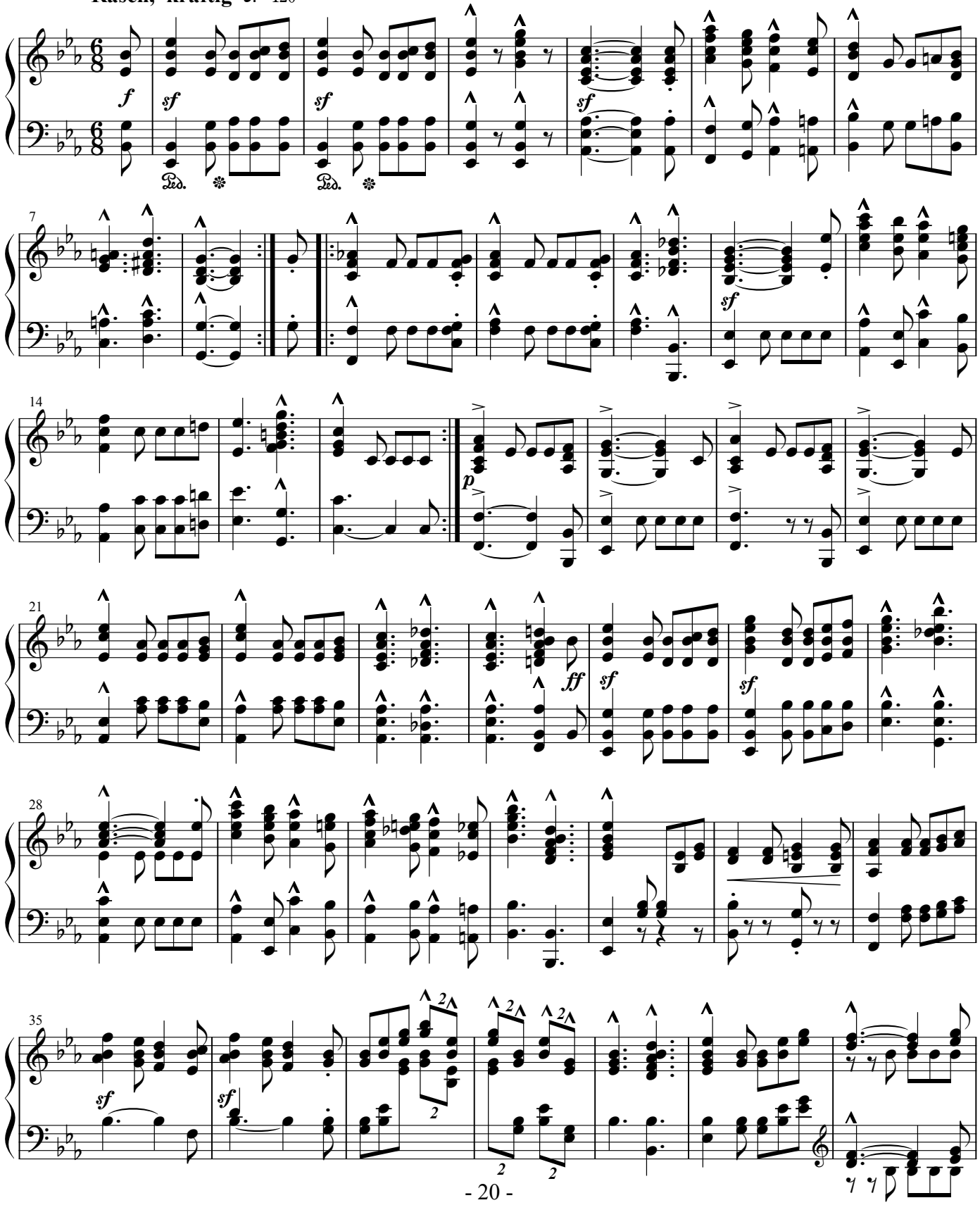

31
Ped.
33
Ped.
Ped.
35
Ped.
Ped.
p
37
fp
fp
fp
39
f
fp
fp
tr
fp
pp
Ped.
41
pp
Ped.
Ped.

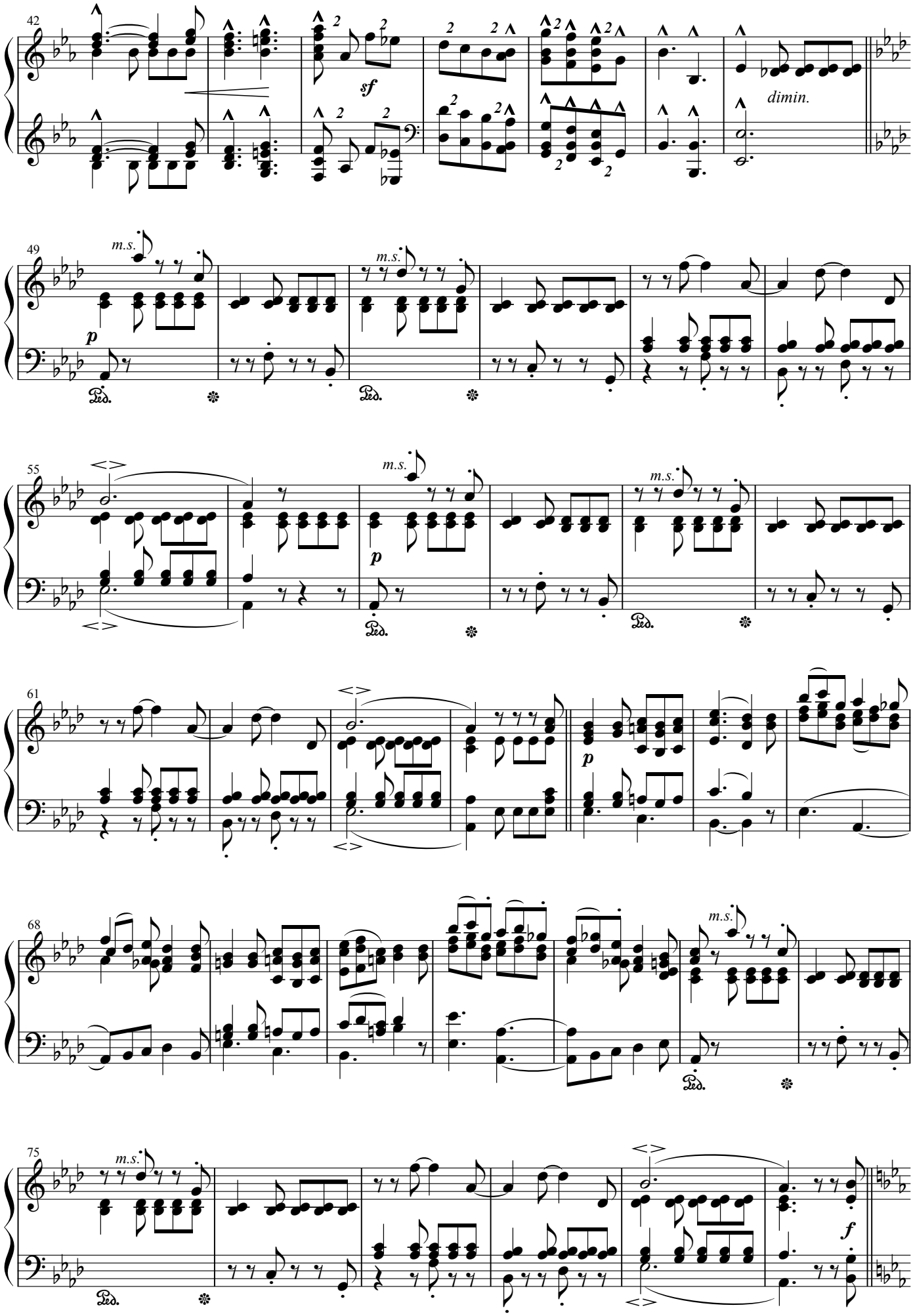
狩の歌

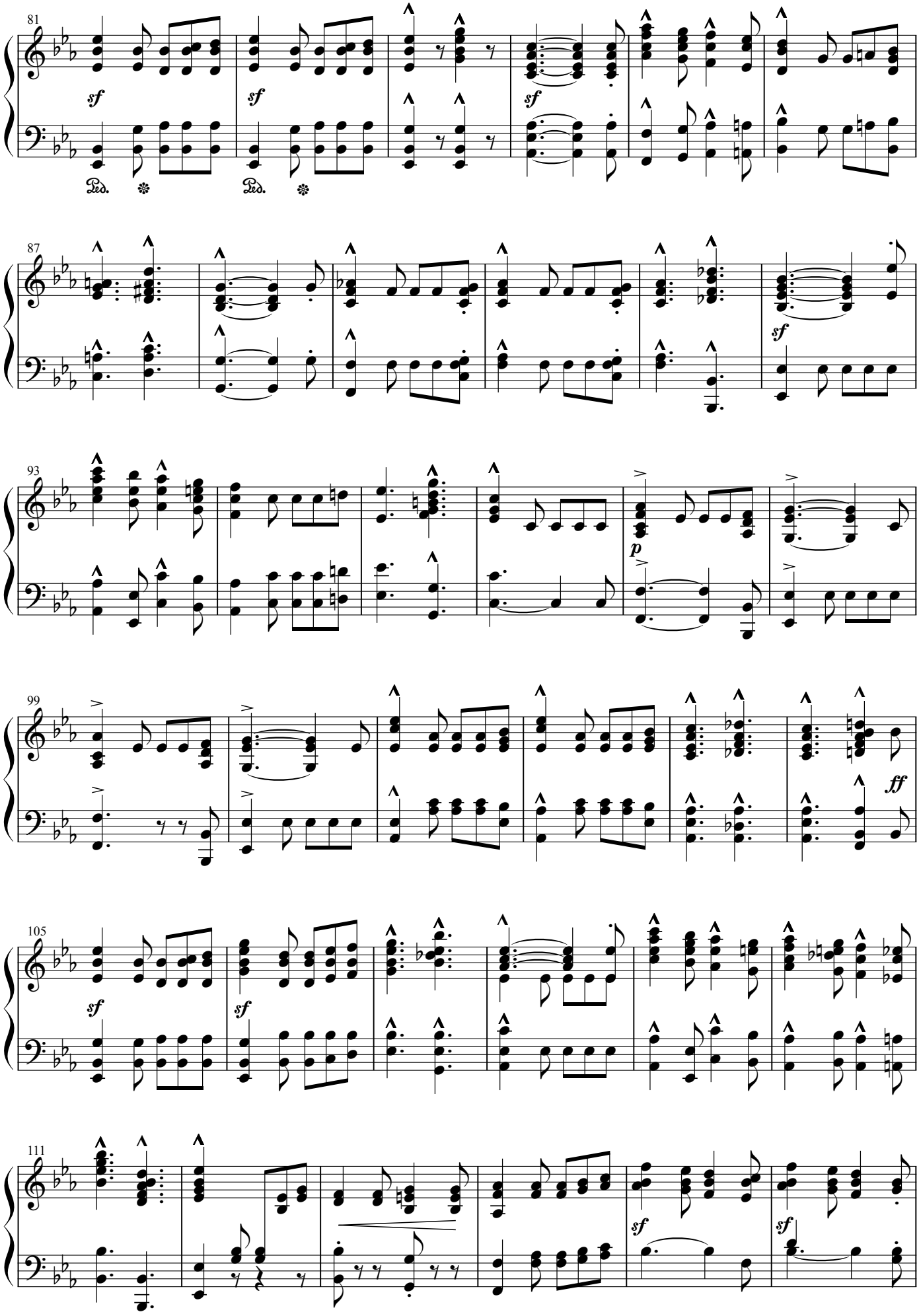
狩人たちの叫び声
勝利の歌　響き渡る角笛
気高き獲物を仕留め
意気揚々たる凱旋
そのために流された血
今一度思い出す
勝つことへの飽くなき執念
勝利の歓喜と
そのために流された涙

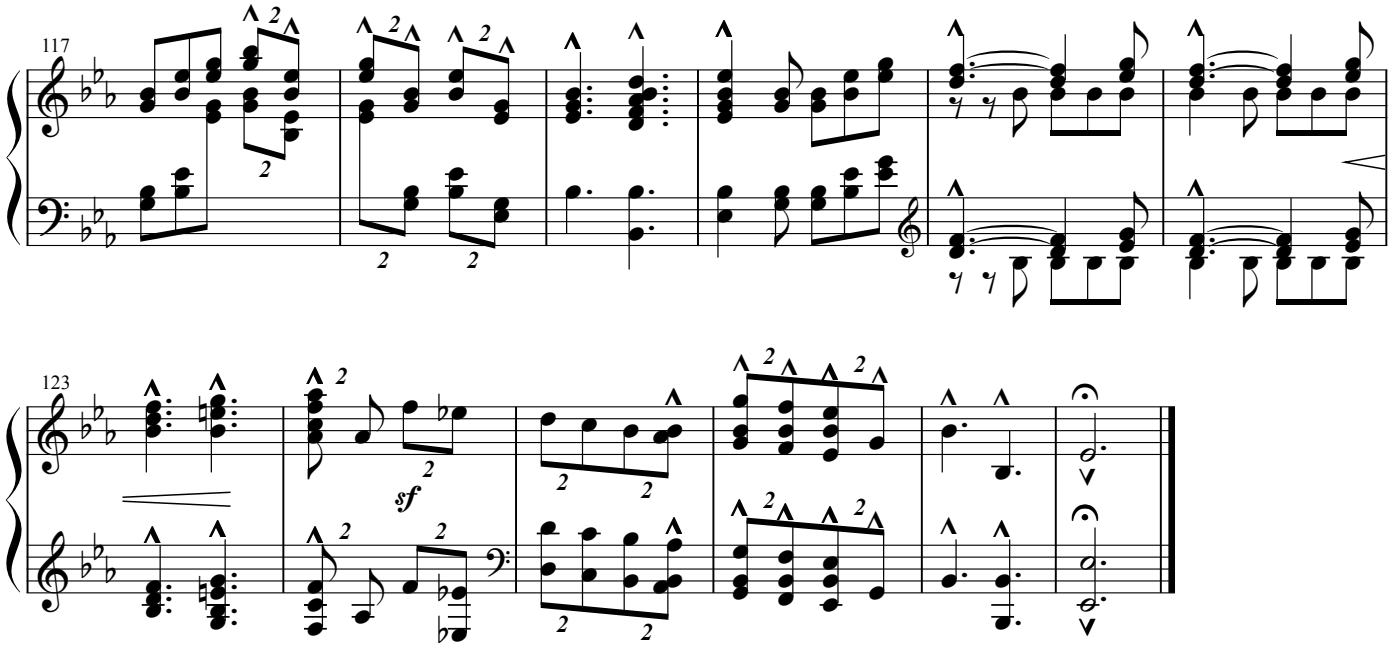
8.Jagdlied

Rasch, kräftig ♩. =120




42
sf
dimin.
49
m.s.
p
Ped.
55
m.s.
p
61
68
75
f


81
sf
Ped.
87
93
p
99
ff
105
111


117
123
sf

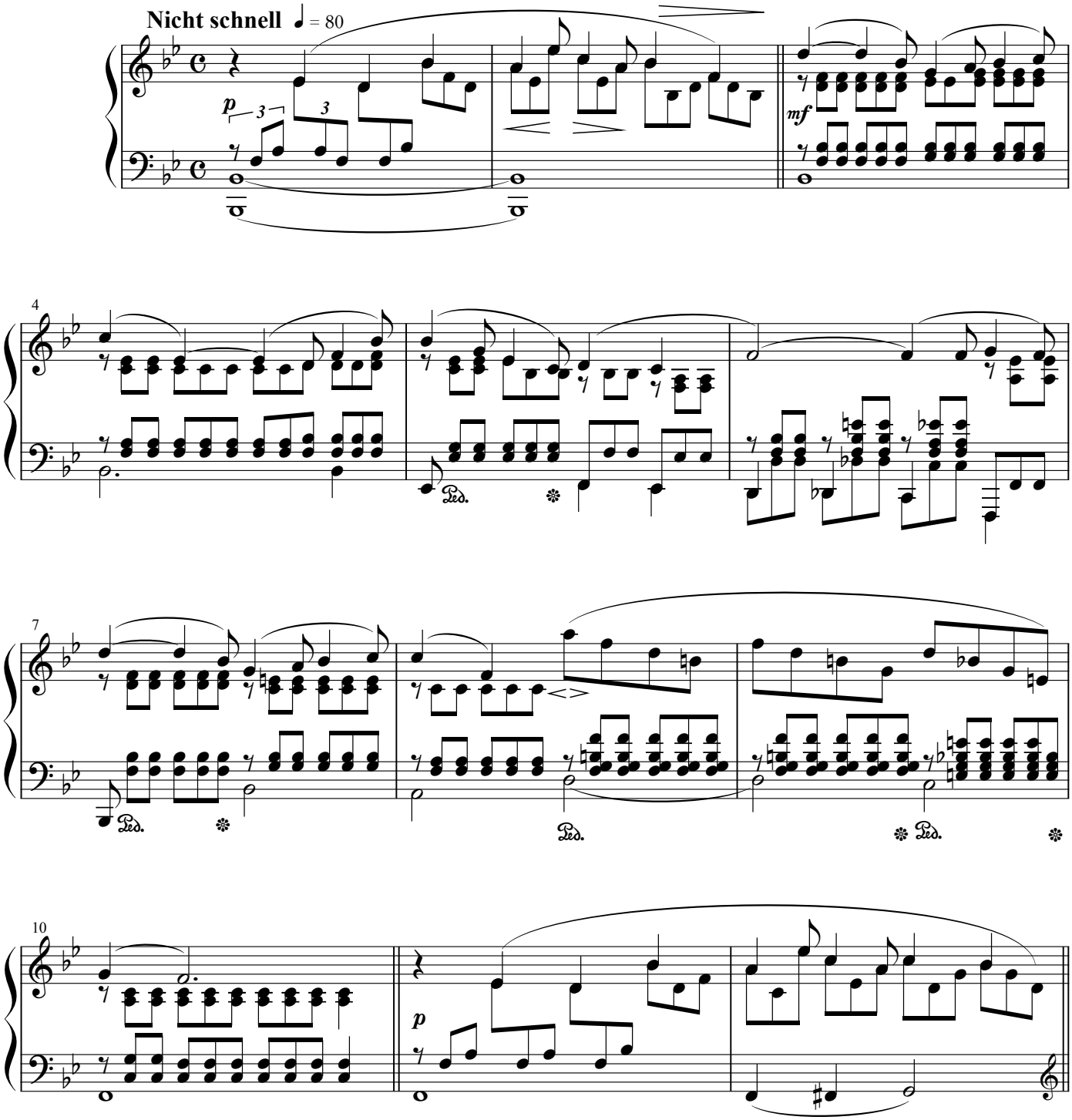
別れ

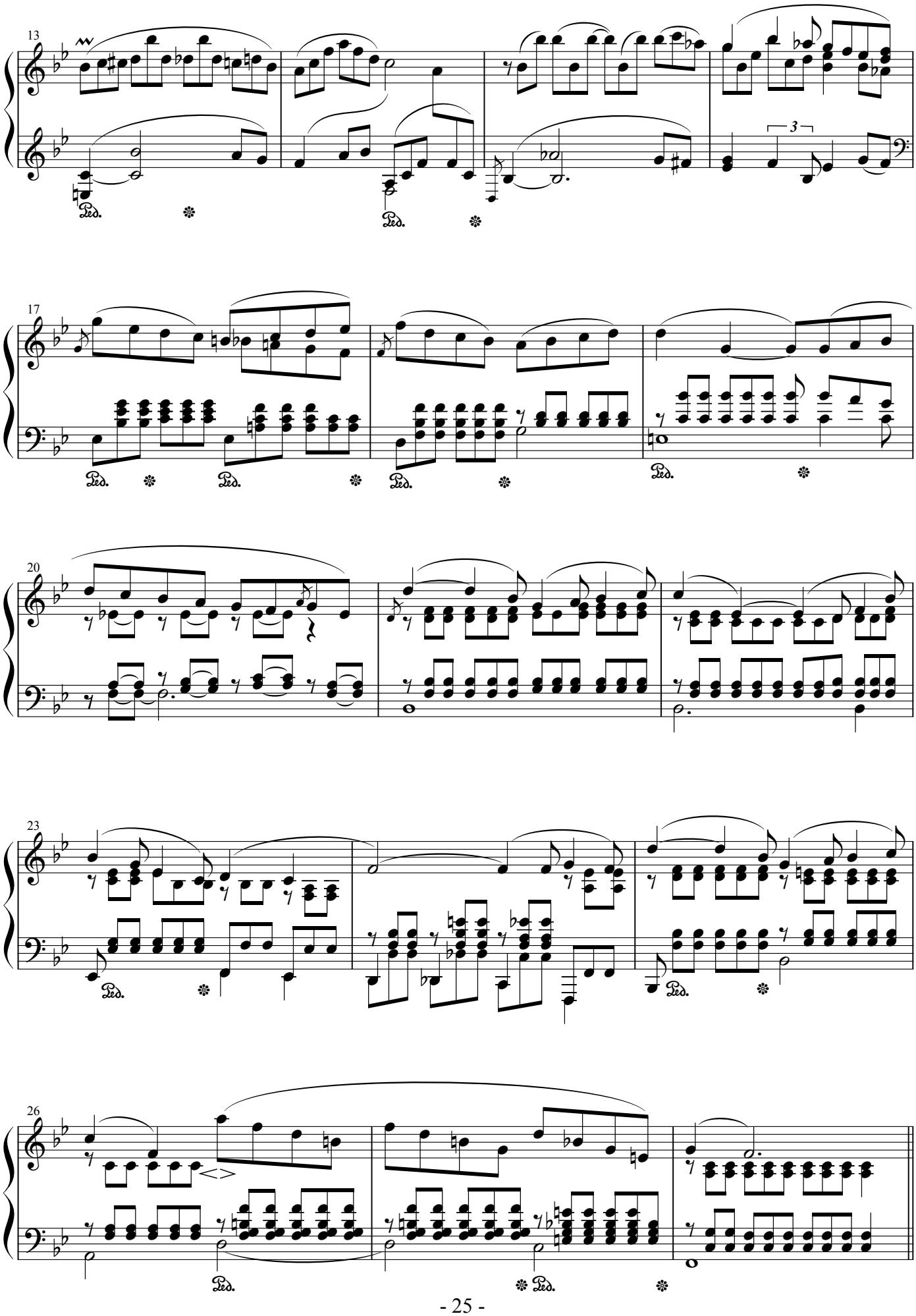
光と闇が調和し
希望の旋律がこだまする森
慰めと励まし
いたわりと戒め
森よ
おまえは調和の真理を示してくれた
愛の意味を教えてくれた

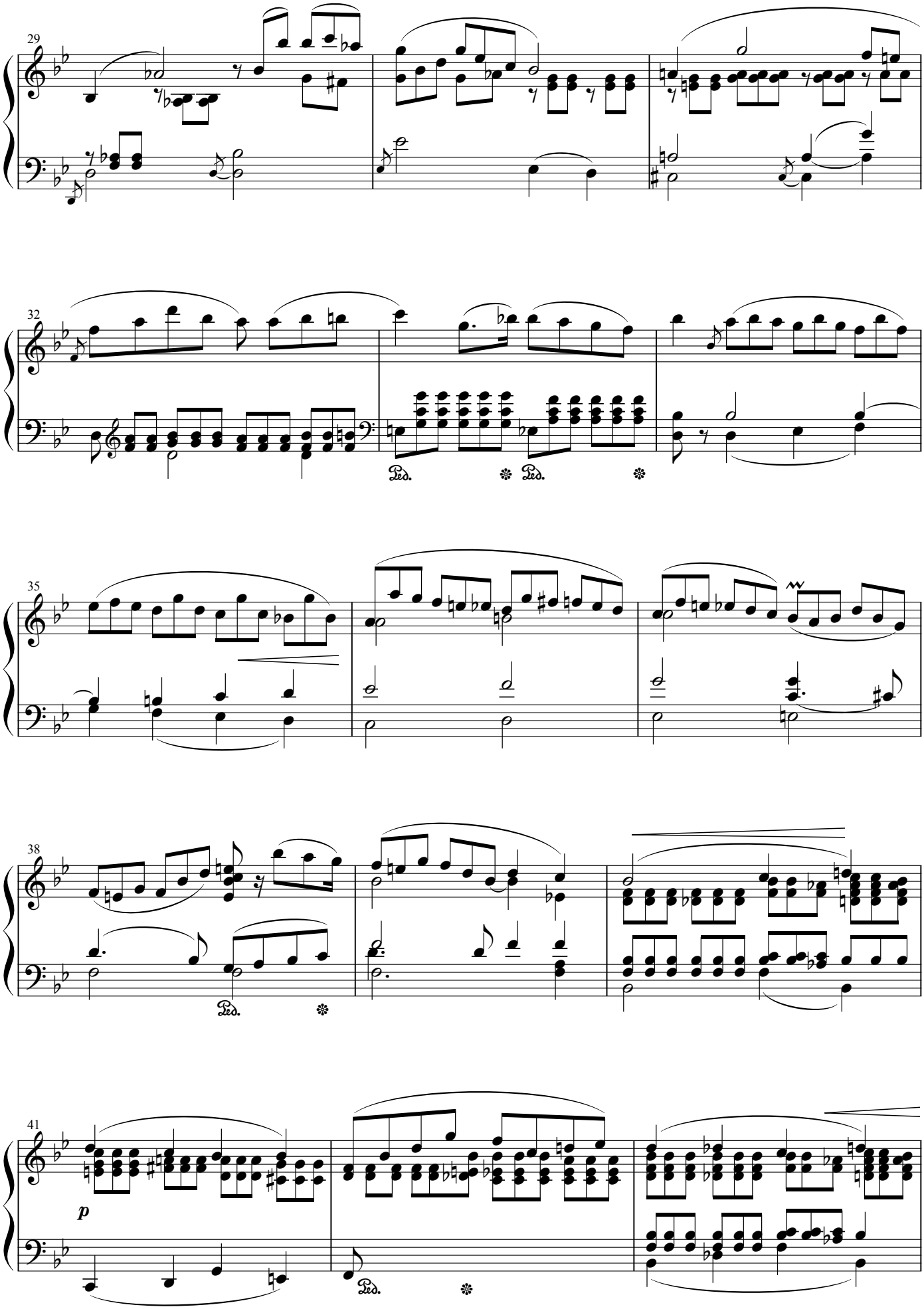
光は闇によって輝き
闇は光に縁取られる
その調和は愛によって保たれるのだ
愛のないところでは光と闇は暴走し
相手を呑み込もうとする
どちらか片方だけでは存在できないのに
森よ
おまえに感謝する*↙

9.Abschied

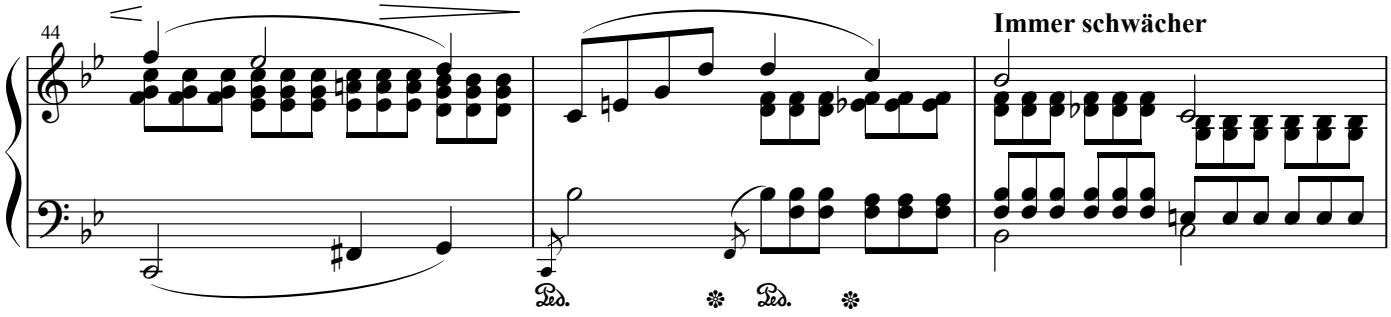
* 愛の光を心に灯し　別れを告げよう　　森よ　お別れだ




13
Ped.
Ped.
3
17
Ped.
Ped.
Ped.
Ped.
20
23
Ped.
Ped.
26
Ped.
Ped.

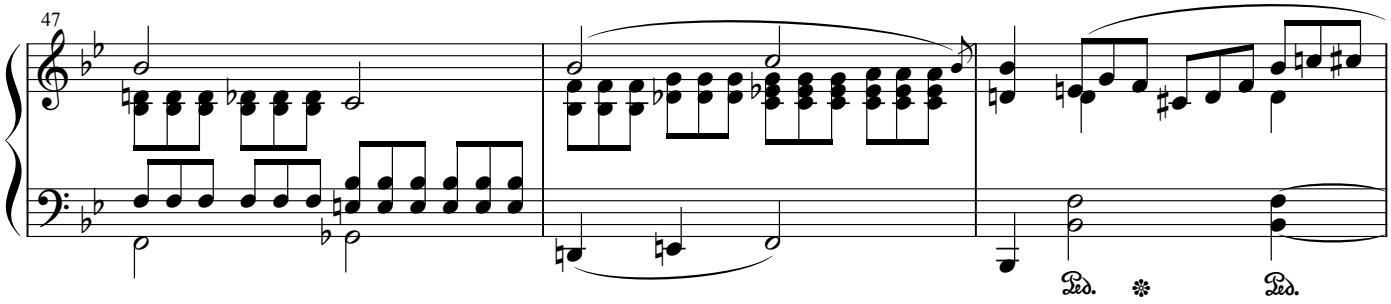

29
32
Ped.
Ped.
35
38
Ped.
41
p
Ped.

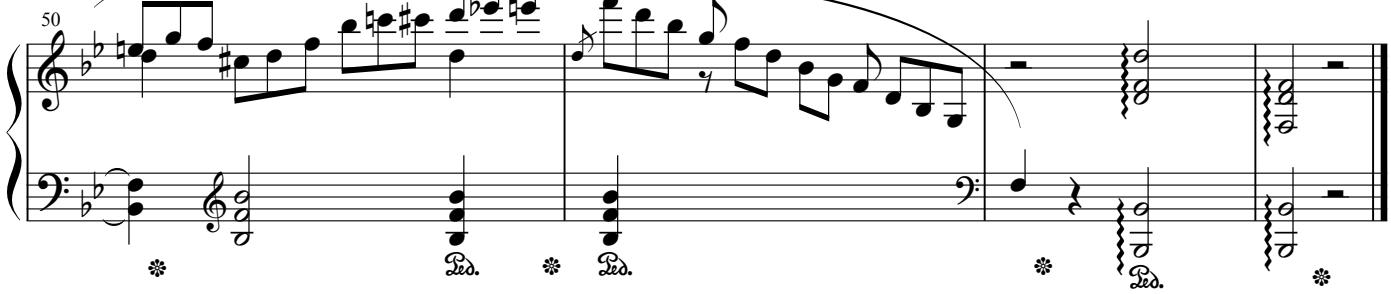
＊10「それから僕は君に信頼と尊敬と
あふれんばかりの愛情を抱いてる。



ああ愛しいクラーラ、君の愛は
僕をあまりにも幸せにしてくれる。

もう一度こころから
君を抱きしめる。



それから僕を愛し続けておくれ。

1840年 2月7日　ロベルト・シューマン」
(Robert Schumann)